

学校教育ビジョン ◎校訓 「信」 ◎学校教育目標 「私もみんなも幸せな未来を拓く心豊かな児童の育成」 ◎重点目標 授業革命・令和の日本型教育への挑戦！ 本当に「わかった！できた！おもしろい！」授業をつくる	<めざす児童像> 知…なりたい自分に向かって自ら学ぶ 徳…「おあしす」の心を実行できる子 体…よく遊び、よく学んで、ぐっすり眠れる子	<めざす教師像> 学習指導…本当に「わかった！できた！おもしろい！」授業を通して、児童に確かな学力を身につけさせることができる教師 生徒指導…本当に「わかった！できた！おもしろい！」授業を通して、児童の生きる力を育むことができる教師 組織運営…チーム河小で、令和の日本型教育に臨み続ける教師
--	---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	中間の判定	中間の成果と課題
①教育課程・学習指導	主体的に学ぶ児童の育成をめざし、1年後の全国学力調査で県平均+2	単元(授業)設計で習熟時間確保 習熟①:適用題(デジタル・綴る活動) 習熟②:習熟度別少人数学習(学年縦断的)	教務	算数の授業が楽しいと回答する児童の割合が向上(95%)教師の授業改善により、児童が自ら学ぼうとする児童が見られるようになってきている	(成果指標) 主体的に学びに向かい、確かな学力を身につけている	5年児童の確認テストでの平均点、 A:80%以上である B:70%以上である C:60%以上である D:60%未満である	R5全国学力調査問題の5年児童の平均点で評価する	D	5年確認テスト(R5全国学力調査国語①・算数①)の結果、5月末実施 国語正答率18.2%(無答率69.7%)算数 正答率53.4%(無答率26.1%)→7月実施 国語正答率53.0%(無答率22.0%)算数 正答率56.8%(無答率19.3%)になった。ふ+80と習熟①②を継続する。
	本当に「分かった」「できた」「おもしろい」授業づくりを通して、自ら学ぶ児童を育てる。	児童が問いをもち、協働的、探究的に課題を解決していけるような単元設計を行う。	研究	算数科を中心に、授業が楽しいと肯定的にとらえる児童が増えた。	(成果指標) 児童が主体的に学習に向かっている。	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と答えた児童が A:90%以上である B:80%以上である C:70%以上である D:70%未満である	児童アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	A	児童アンケートの結果、93%の児童が肯定的に回答した。児童の思考の流れを意識し協働的な学びを組み込んだ単元設計と、児童が問いをもち課題を解決していく授業スタイルが定着してきている。今後もつけたい力を明確にし、児童の主体性を生かした単元設計と授業づくりを進める。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	「おあしす運動」を柱とし、思いやりの心や児童の主体性の育成に取り組む。	児童の実態に応じて縦割り活動や委員会活動を充実させ、全校で取り組む。	児童会	96%の児童が親切にしていると回答し「おあしすの心」が児童に浸透してきている。	(成果指標) まわりの人に親切にしたり優しくしたりする。	まわりの人に親切にしたり優しくしたりした児童が、 A:90%以上である B:80%以上である C:70%以上である D:70%未満である	児童アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	A	児童アンケートの結果、親切にしたと肯定的に回答した児童は90%であった。縦割り活動が充実していたことで他学年にも親切にしたという意識が高まっている。今後も児童が主体的な活動に取り組む活動を充実させ、親切にもらった喜びを伝える機会を増やしていく。
	学校が楽しいと思える児童の数を増やし、不登校0をめざす。	「わかった、できた、おもしろい」授業やクラス会議などを通して、自分を大切にしようという思いを大切にしながら、おあしすの心を実行できる児童を増やしていく。	生徒指導	学校が楽しいと言った児童は57%であった。また、どちらかといえば楽しくないが6%、楽しくないが7%であった。みんなが楽しく居心地のよい学校づくりを目指さなければならない	新規不登校児童を出さないかつ、「学校が楽しい」と言い切る児童。	新規不登校児童を出さず、「学校が楽しい」と答えた児童が、 A 60% B 50% C 40% D 30%	出席の記録および児童アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	B	不登校児童0は達成できているが、「学校が楽しいか」に対して「そう思う」が55%で60%未満であった。「どちらかといえばそう思う」が32%、「どちらかといえばそう思わない」が5%、「そう思わない」が8%。授業内での生徒指導を意識した働きかけ、おあしす会議とおあしすトークの継続をする。また、WEBQUを活用し要支援群・不満足群の児童に対応する。
③キャリア教育・進路指導	よりよい人間関係を築きながら、児童の自己肯定感を高める。	学級活動や委員会活動、学校行事等において、「めあてと振り返り」の活動の時間を充実させ、児童自身が達成感をもてるような特別活動を工夫する。	キャリア	行事や委員会活動に積極的に取り組む児童が多い。自ら考えた「おあしす」の心を実行できる児童を増やしたい。	卒業生が「この学校で学んでよかった」と言い切る。	「この学校で学んでよかった」と回答した卒業生が、 A 80% B 70% C 60% D 60%未満	卒業生アンケート(2月)	—	全国学力学習状況調査の結果、「学校に行くのは楽しいと思う」と答えた児童は72%、「友達関係に満足している」と答えた児童は80%であった。児童主体の縦割り活動を行ったことで、めあてを吟味して活動に取り組む児童の姿が見られた。行事等で振り返りの交流を行うなど、「めあてと振り返り」を学校全体でさらに充実させていく。
④保健管理	基本的な生活習慣を身につけさせるための指導の充実を図る。	生活リズムががんばり週間や保健指導の取組を実施する。「メディアリテラシー」を学校保健委員会のテーマとし家庭と連携して取り組む。	保健	昨年度のメディアアンケートで、休日3時間以上メディアを使用している児童が6割、ルールがない児童半数程度おり、昨年度から継続してメディアの指導を行っている。	(成果指標) 生活リズムががんばり週間や家庭でメディアのルールを決め、守ることができる。	メディアルールを守ることができた児童が、 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	生活リズムががんばり週間(9,11月)の結果から評価する。	—	9月に保健指導、11月に学校保健委員会を計画している。また、実施後には生活リズムががんばり週間を行い、児童がメディアコントロールを含めた健康的な生活習慣を意識できるように働きかけていく。
⑤安全管理	児童・保護者・職員の防災への意識を高め、具体的な行動につなげることができるようにする。	避難訓練の際には、自分の命を守る行動および日頃からの備えについて、家庭と連携した取り組みをする。	教頭	火災・地震の訓練の際にはチェックリストを活用し、85%の児童が家族と防災について話し合っていた。	各家庭で地震や火災への備えについて点検する。	家族といっしょに、地震や火災への備えについて点検した児童が A 90% B 80% C 70% D 70%未満	訓練終了後に児童アンケートを実施する。	D	地震への備えについて家族と話し合った児童は51%。訓練当日は自分の命を守る行動がしっかりとできていたが、日ごろからの備えの大切さについてしっかりと事前指導し、家庭の協力をよびかける。
⑥特別支援教育	全教育活動において、全体も個も生かす、個性を伸ばす指導の工夫をし、有効かつ適切な支援を行う。	校内特別支援委員会を中心に、専門機関の協力を得ながら、全体や個に応じた支援を行う。支援方法や現状を共有し、組織的な支援体制を確立する。	特別支援	児童理解に全職員で取り組んでいる。個別の支援策を記録し、有効に活用する。また、その支援策を職員全体で共有できるようにする。	(努力指標) 全体や個に応じた有効な支援に取り組む。	全体や個に応じた有効な支援に取り組むことができた教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	B	「全体や個に応じた有効な支援に取り組んでいる」に対して肯定的回答が83%。授業内では支援によって課題を達成しているように見えるがペーパーテストでは解答できない予想より下回る結果になるという実態が見られる。支援方法の共有や支援の仕方が良かったかどうかのふりかえりを行い、児童に合った支援を追求する。
⑦組織運営・業務改善	職員のワークライフバランスを整える。	ICT化、教育環境の整備、会議打合せの精選などを通じて、業務の効率化を図り、教職員がやりたい業務に費やすことのできる時間を確保する。	教頭	昨年度、約6割の職員が、1月に45時間以内を年6回以上達成できた。ほとんどの職員が1月45時間以内を達成し、より充実した教育活動にとりくめるようになる必要がある。	(成果指標) 超過勤務時間が1月に45時間以内を6回以上かつ年間320時間以内を達成できたか。	超過勤務時間が1月に45時間以内を6回以上かつ年間360時間以内を達成した職員が A 100% B 80% C 60% D 60%未満	勤務時間記録で評価する。	D	4～7月の期間で、1月45時間超が3回以上の職員は15%、超過勤務合計が130時間を超える職員が54%であった。授業改善、日課の変更、ICTの活用による情報共有、ペーパーレス化の促進、会議打合せの精選を進め、授業準備のための時間を多く確保することができた。このままでは半数以上の職員が年間360時間を超えることになるので、さらに改善を進めていく。
⑧研修	能動的に学ぶ研修会を行う	小小連携を図り、同学年での教材研究の機会をつくる。研修サポートを活用したり、ベテラン教員に教えてもらったりしながら、単元設計を学ぶ機会をつくる	教務・GIGA	小規模校であるため、同学年での教材研究ができない。放課後の時間が少ないため、教材研究する時間が短い。	(成果指標) 教師力向上と人材育成を視野に入れた効果的な研修を、積極的に企画・立案・実行し、学んだことを活かす。	校内研修、若プロなどで学んだことが授業で活かされたと回答する教員の数が、 A:10人以上である B:9人以上である C:8人以上である D:8人未満である	教職員アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	D	A回答6人、B回答5人で肯定的な回答だったが、授業に活かしていると実感を持っていない。日頃のOJTの充実を図り(ICT活用、個別最適な授業、子に委ねる授業、単元設計、教材研究)、計画的に研修機会を設ける。
⑨保護者、地域との連携	地域とともに歩む学校づくりを推進し、児童の郷土愛を涵養する。	各教科や行事等において、コミュニティースクールと連携するなどして積極的に支援を要請し、地域の人材・資源を生かした取り組みを進める。	教頭	昨年度は、体育の水泳、5年の家庭科、総合的な学習、特活、クラブ活動などにおいて外部人材を生かした取り組みを進めることができた。さらに、今年度はSTEAM教育や道徳などにおいても取り組みを進められるとよい。	児童が山中温泉・河南地区をいいところだと思う児童が、 A 90% B 80% C 70% D 70%未満	山中温泉・河南地区をいいところだと思う児童が、 A 90% B 80% C 70% D 70%未満	児童アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	A	81%の児童がよいところ、14%の児童がまあまあよいところ、と回答している。さらに、保護者・地域の方々々が気軽に参加できるよう、さまざまな機会に学校への参加を呼びかけ、学校への敷居を低くして参加しやすい雰囲気づくりに努める。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で居心地の良い教育環境の充実を図る。	老朽化した校舎に対して、危機管理意識を高く持ち、点検項目にそって安全点検を実施する。日頃から整理整頓し、気持ちの良い教育環境を整える。	教頭	定期的に点検していたが、対応が遅れることがあった。組織として迅速に対応するようしていく必要がある。また、校舎の老朽化による修理の必要が多かった。	危機管理意識を高く持って点検し、迅速に対応する。	危機管理意識を高く持って点検し、迅速に対応することができた職員が A 100% B 80% C 60% D 60%未満	教職員アンケート(1,2学期末)の項目で評価する。	B	A回答7人、B回答5人、C回答1人であった。学期に一度の安全点検だけでなく、日々の見回りで常に点検するようにする。

学校関係者評価	
---------	--